

2025 年度
横浜みどりアップ計画
実績報告書【巻末資料】



横浜みどりアップ計画の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2025 年度報告書

案

【抜粋】

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2026 年〇月

目 次

1 はじめに	1
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について.....	○
3 市民推進会議 2024～2025 年度の活動実績.....	○
(1) 活動の概要	
(2) 活動の詳細内容	
ア 市民推進会議(全体会議)	
イ 施策別専門部会	
ウ 広報・見える化部会	
エ 調査部会(現地調査)	
4 横浜みどりアップ計画の評価・提案.....	○
◆計画の体系	
(1) 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	○
施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用	
(2) 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる.....	○
施策1 農に親しむ取組の推進	
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	
(3) 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる.....	○
施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成	
施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進	
(4) 効果的な広報の展開	○
市民の理解を広げる広報の展開	
(5) その他事項に対する評価・提案.....	○
5 市民推進会議委員名簿.....	○
6 市民推進会議委員からのコメント.....	○
7 広報・見える化部会からの情報提供.....	○

(1)

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な役割や機能が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承。

施策1

まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

- (1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

事業② 良好な森の育成

- (1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進
- (2) 指定した樹林地における維持管理の支援

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

- (1) 森づくりを担う人材の育成
- (2) 森づくり活動団体への支援
- (3) 森に関わるきっかけづくり
- (4) 森の多様な楽しみづくり

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

- ・
- ・

事業②について

森づくりの推進、指定した樹林地の維持管理の支援について

・良好な森づくりを進めるために、実際の作業者に対しても、「みどりアップ計画とは何か」、「横浜の自然をどう守るか」といった基本的な情報を共有することが重要と考えます。

・管理されていない山が増えています。みどりアップ計画を通じて、さまざまな人の力を借りながらこうした場所を守っていくことは、保全にしっかりつながっていると思います。こうした計画の成果もさらに PR できるのではないかと思います。

・みどりアップ計画として樹木の健全な育成をどう進めていくかという点で、「維持管理助成」は、私有地で大きな樹木を抱えている方にとって非常に重要な施策です。倒木の不安や近隣への迷惑などの悩みを抱える方が多い中で、さらに積極的に広報し、より活用しやすくする必要があるのではないかと思います。

事業③について

森に関わるきっかけづくり(イベント・情報発信)について

・親子が参加できる取組では「よこはまこどもみどりアップ」リーフレットを配布する、講師に対しては「みどりアップ計画の事業なので、こういう視点で講義をお願いします」と伝えるなど、イベントもみどりアップ計画を知ってもらう重要な機会として活用する必要があると考えます。

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

望月 正光

実績報告書について

- ・地域は住民のニーズにこたえる形で動いています。そのためみどりアップ計画の実績についても、取組によって、地域に体験の場が広がったり、学校教育にもつながったりするなど、地域が実際にどのように活性化したのか、地域へどんな寄与があったのかといった波及効果について示すことにより、事業への評価がさらに高まるのではないかと思います。

市民の関わりの向上について

- ・緑の取組は学校だけでなく、地域へのアプローチも丁寧に行っていく必要があります。あわせてホームページや情報発信を分かりやすくできれば、活用できる人も増えるのではないかと思います。そのことが満足度向上にもつながると思います。
- ・横浜市の所有する土地や施設と、活動したい学生とをつなぐ仕組みがあれば、若者を緑づくりの現場に引き込むことができると思います。緑の取組は数多くあると思いますが、場所を作るだけでなく、活用したい人となぐ取組も増やしていただけたらいいのではないかと感じました。
- ・みどりアップ計画の3つの柱はいずれも、単にハードを整備するだけではなく、「農を感じる」、「実感できる緑・花」、「森を育む」という、関わりを前提としたものです。そういう意味では、今後はより多くの市民がより多様な関わり方ができる施策を強化していく必要があると思います。それは広報だけではなく、例えばコーディネーター派遣のように、事業展開の中で関わりが生まれる仕組みを増やしていくことが重要だと思います。
- ・一度みどりに関心を持ってくれた人たちが、その後どうやって緑に関わり続けるのかといった点が重要だと思います。現状では、緑の維持管理活動や学習など、比較的深い活動が中心ですが、「維持管理まではいかなければ、少し体験してみたい」という層に向けた裾野を広げる事業が増えると、継続的に関わる方も増えるのではないかと思います。
- ・「木が1、2本あるだけで生まれる木陰」や、そこに置かれた居心地の良いベンチ、あるいは、ミストなどを使った涼しさの演出といった小さな工夫が、これからは必要だと思います。こうした小さな工夫によって、整備した場所がこれからも市民に愛される場所であり続けることが大切だと感じています。
- ・私たち17名の委員も、みどりアップ計画のアンバサダーのような立場で積極的にPRをしていきたいと思っています。

横浜グリーンエキスポについて

- ・地域で花づくりを行っていることに加え、林地や農地があり、農業も盛んであり、街路樹の整備にさまざまな工夫がされているなど、横浜グリーンエキスポは横浜市の多様な緑の取組を紹介できる機会でもあります。ホームページやパンフレット等で、「横浜市はこれまで長く、こんな施策を実施してきたから園芸博を開催する」という情報を発信し、海外の方に里山などにも足を運んでもらい、これまでのみどりアップ計画による実績を見てもらえるような工夫が必要だと思います。

維持管理について

- ・今後、植栽する樹種についても、高温や乾燥に強い種類やグラス類などの導入を検討する必要があると感じています。また、維持管理に関わる作業員の安全確保も重要です。草刈りロボットの活用や作業時間の見直しなど、働き方そのものを先進的に考えていくことが求められているのではないかと思います。

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、みどりについて日ごろ感じたことについて、委員からのコメントです。

〇〇委員コメント

委員の皆さまにコメントをいただきます





横浜みどりアップ 葉っぴー